

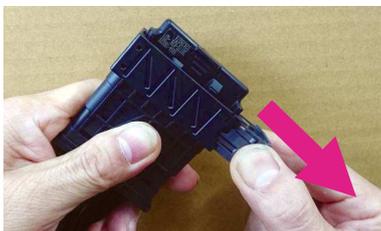
※取り付ける前に必ずお読みください。

重要

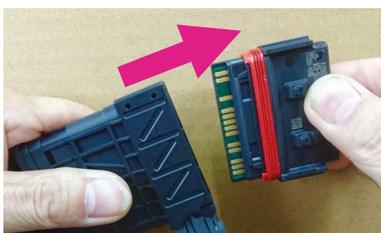
スロットタイプコネクタ RTF 取り扱い注意事項

※取り扱い方を誤ると重大な故障になり、容易に修理はできません。ご注意ください。

■ 純正ECUの取り外し方



- ① 純正ECUを取り外すには、灰色のレバーをいっぱい引っ張ります。

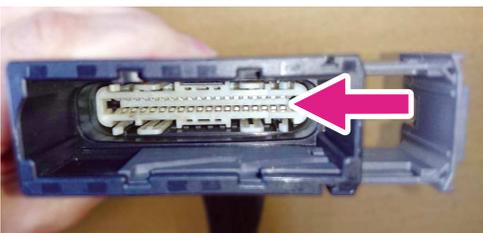


- ② レバーをいっぱい引っ張るとECUがフリーになります。コネクタ本体をしっかり掴んでECUをまっすぐに引き抜きます。ECUの端子は手で触れないでください。

■ ENIGMAに純正ECUを取りつける前に確認する事



- ① 製品のコネクタスロット部に埃やゴミが無い事を確認します。次に、灰色のレバーが一杯に引かれている事を確認します。



- ② コネクタスロットの内部(写真)の金属製の端子が開いている事を**毎回必ず確認**してください。矢印部分の金属端子が均等に開いておりECUの「差し込み部分」が入る隙間が空いていることを確認します。車体側コネクタも同様に行います。

重要

確認するコネクタ部の金属端子は、ECUを挿入すると上下から基板を強く掴む構造になっています。このため正しく開いていない時にECUを挿入すると端子を破壊してしまいます。万一、破損した場合容易には修理出来ません。下の写真をよく見て確認してください。

コネクタスロット内部端子確認

悪い例



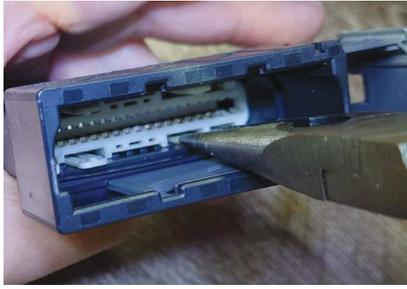
コネクタスロット内部のECU端子をつかむ為の端子が飛び出している。この状態でECUを差し込むと端子が破壊されてしまい重大なトラブルになります。

正しい例



コネクタスロット内部のECU端子をつかむ為の端子が綺麗に引っ込んでいる。(開いている) ECUから飛び出ている基板端子の厚み分が確保されている。

■ 万一、スロット内部端子が正しい位置にない場合



ラジオペンチ等を用いてカプラースロット内部の奥にある白いパーツの上下左右4ヶ所から出ている幅の広いつめを傷付けない様に水平に少しずつ引っ張ります。端子が「正しい例」のようになったらそれ以上は引っ張らないでください。

※カプラーの金属端子部分に触らないようにして下さい。
ラジオペンチ等を強く握り過ぎないでください。
また、一度に強く引っ張り過ぎないでください。

■ ENIGMAに純正ECUを取りつける



- ① ECUの向きをよく確認し、静かに挿入します。裏表を間違えた方向に入れた場合は、カプラースロットに入りません。ECU本体を真っすぐにカプラーに押し込みます。

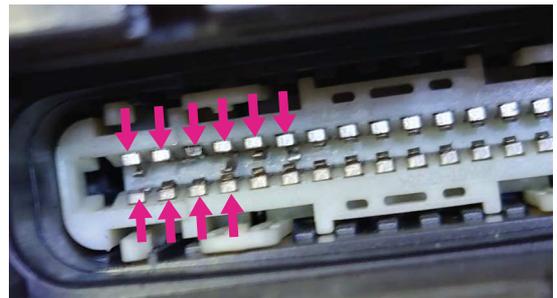


- ② ECU押し込みながら、灰色のレバーを元の位置に押し戻します。この時ECUは灰色のレバーの動きに連動してより深く入っていき正しい位置にセットされます。

※このタイプのECUは本体から基板端子部が露出しており、そこにゴミや埃、汚れや油、指紋が付くと重大なトラブルの原因となります。ECUを取り外したあとは十分注意して取り扱ってください。また取り外した後は、静電気にもご注意ください。

! トラブル事例

カプラースロット内部確認をせずにECUを差し込んで端子が壊してしまった例です。矢印の指す端子部分が壊れています。こうなると修理が出来ない為、全交換になります。



ECUの取り外し取り付けは上記説明のように重要な注意事項があります。万一この部分でトラブルが発生しましても、当社は一切責任を負いません。内容を理解して正しく作業を行ってください。少しでも不安がある方は、専門店かプロショップ等に依頼することをお勧めします。

アプリのダウンロード・操作マニュアルはこちら



ENIGMA タイプVを取り付ける前に必ず行って下さい

当社ENIGMAタイプVをご購入頂き、誠にありがとうございます。

ENIGMAタイプVはエラーを出すことなくO₂センサーフィードバック機能を停止させ、任意の増量／減量に対しECUの補正を停止させ、イメージ通りの燃調を行う事ができます。

タイプVは新しい回路／プログラムを採用し、今までの物よりより正確に作動し動作レスポンスも

向上しています。この為、**使用する前には必ずECUを一度リセットして出荷状態に戻す必要があります。**

ECUは内部に今までのフィードバックデータをある程度蓄積しますのでリセットしない場合、ENIGMAを取り付けても正しく燃調が出来ません。

ECUのリセットは下記をよく読んで正しく行って下さい。作業が終わりましたらENIGMAと接続を行います。その後リセットしたECUを取り付けて下さい。

ECUリセット方法

①安全な場所でシートを外し、車体右側にある

「サービスコネクタ」を見つけます。

赤い四角いコネクタです（6PIN）

サービスコネクタを車体に固定されているキャップ

から取り外し、コネクタを爪を上にして正面から見て

上側の右端と左端の緑と青線を電線や針金などを

使い短絡（ショート）させます。（写真／写真内図参照）

穴が小さいので線径の細い物をご使用ください。無理やり挿入するとコネクタを破壊しますので、ご注意ください。ホンダ純正はSCS ショートカプラ 070MZ-0010300 です。



②アクセルを全開にした状態で、キーを「ON」に

します。（アクセルは全開を保つ事）

この状態でメーター内部のFIランプをみます。

FIランプが短い点滅するのを待ちます。

⇒数回点滅したら5秒以内にアクセルから手を離します。

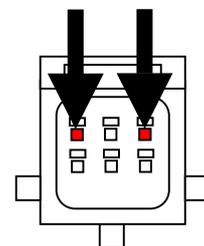
（アクセル全閉）3秒以上全閉を維持すると「ピカッ」と

短い1回点滅します。これで初期化完了しましたので

キーを「OFF」にします。

これでECUのリセット作業は終わりです。

短い1回点滅場合は、初期化できていません。



※ 上記の様にリセット出来ない場合はすでにECU内部に「エラー履歴」がメモリーされてる場合があります。過去にFIランプが点灯（エラーモードになった事がある）などの場合がそうです。

この場合は、その原因を調べ修理した後に内部エラーを消去（サービスマニュアル参照もしくは正規販売店で修理を行って下さい。）しないとECUリセットは出来ません。

※ 必要が無いのにむやみにリセットを繰り返さないで下さい。トラブルの原因になります。

※ 上記作業が不安な方やわからない方は必ず専門店での取り付けをお願いいたします。当社ではECUリセットによるトラブル等に関して一切責任を負いません。

ENIGMA type-V

GROM (2BJ-JC92) 取り付け、接続方法

本マニュアルの対応機種 下記組み合わせ以外には対応しません。

対応 ENIGMA ENIGMA type-V (EVD-337/EVD-337RTF)

対応車両 HONDA GROM (2BJ-JC92 1000001-1099999) ※GROM (8BJ-JC92) には対応しません。

カプラーオンタイプをお使いの方へ

下記を説明文を参照にノーマルの ECU を車体側カプラーから取り外し、ENIGMA のカプラーと接続してください。ENIGMA 本体は過度な振動や雨水などがかからないよう固定してください。(配線接続作業は一切ありません。)

作業が終わりましたら使い方マニュアルをよく読んで正しくお使いください。

カプラーを抜き刺しする時には、必ず ENIGMA 及びバイク側両方の受け側カプラー内のプラスチック部分を引っ張って、端子が引っ込んでいる事を確認してください。(別紙参照) 確認しないで差し込むとカプラーの端子が壊れます。

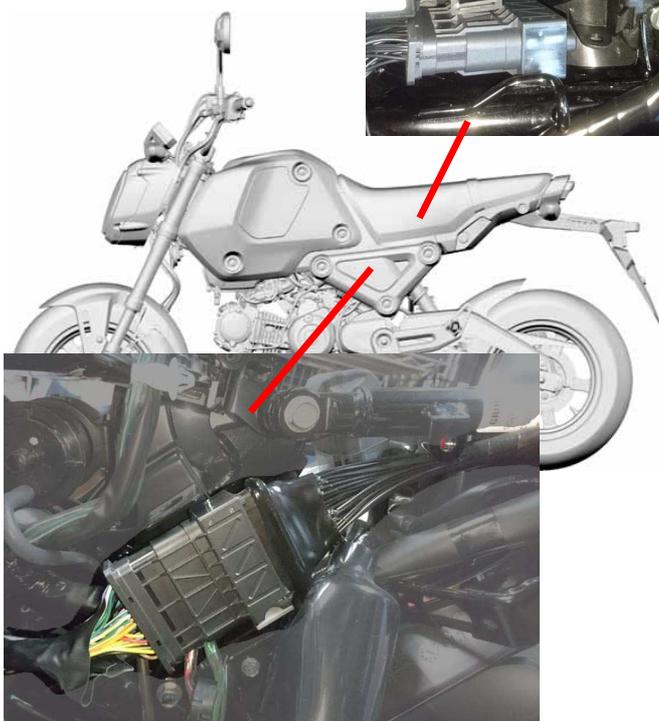
取り付け作業は安全な場所で正しく行って下さい。基本的な GROM (2BJ-JC92) の整備知識が必要です。ノーマル車両には座席左下のカウル内に ECU が有ります。左側のシート下の外装を取り除くと ECU がゴムマウントされています。ECU はカプラーのレバーを引っ張ると外れます。ECU を外したら配線を加工して ENIGMA type-V を割り込みさせて下さい。配線終了後 ECU をカプラーに取り付けてください。ECU とカプラーの切り欠きを合うようにして、カプラーに少し ECU を入れ、レバーを押し込むと ECU が引き込まれます。ENIGMA type-V はシート下や、右側カウルの下に取り付ける長さの配線になっています。水に濡れないよう取り付けてください。

取り付け例

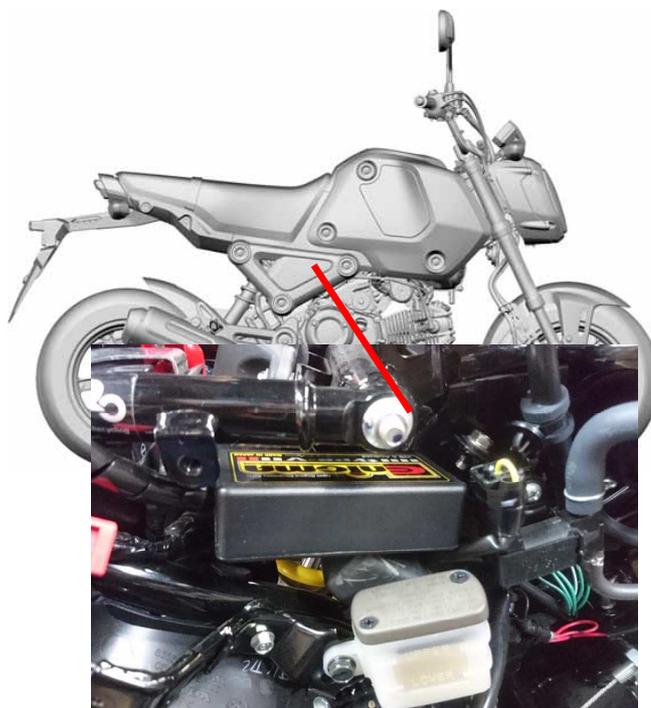


RTF タイプで

シート下バッテリー後ろのスペースに
ECU と ENIGMA を取り付け例



RTF タイプの ECU 取り付け



ENIGMA を右側サイドカウル内に取り付けた例

バラ線タイプの ENIGMA type-V の場合、カプラー側の配線に ENIGMA type-V 配線の多くを割り込み接続します。
(割り込み接続とはノーマルの配線を切断せずに分岐する様に接続する事です。)
割り込み配線接続はエレクトロタップやギボシを使用しないで下さい。接続トラブルが多く
ENIGMA Type-V の動作に問題が起こります。(ハンダ付け等での作業で信頼性が向上します。)

- 基本的に ENIGMA type-V から出ている配線色と接続する車両の配線色は同じか、もしくは近い色になっています。

下記の図を良く見て正しく接続して下さい。ENIGMA Type-V から接続する配線は全部で 11 本です。

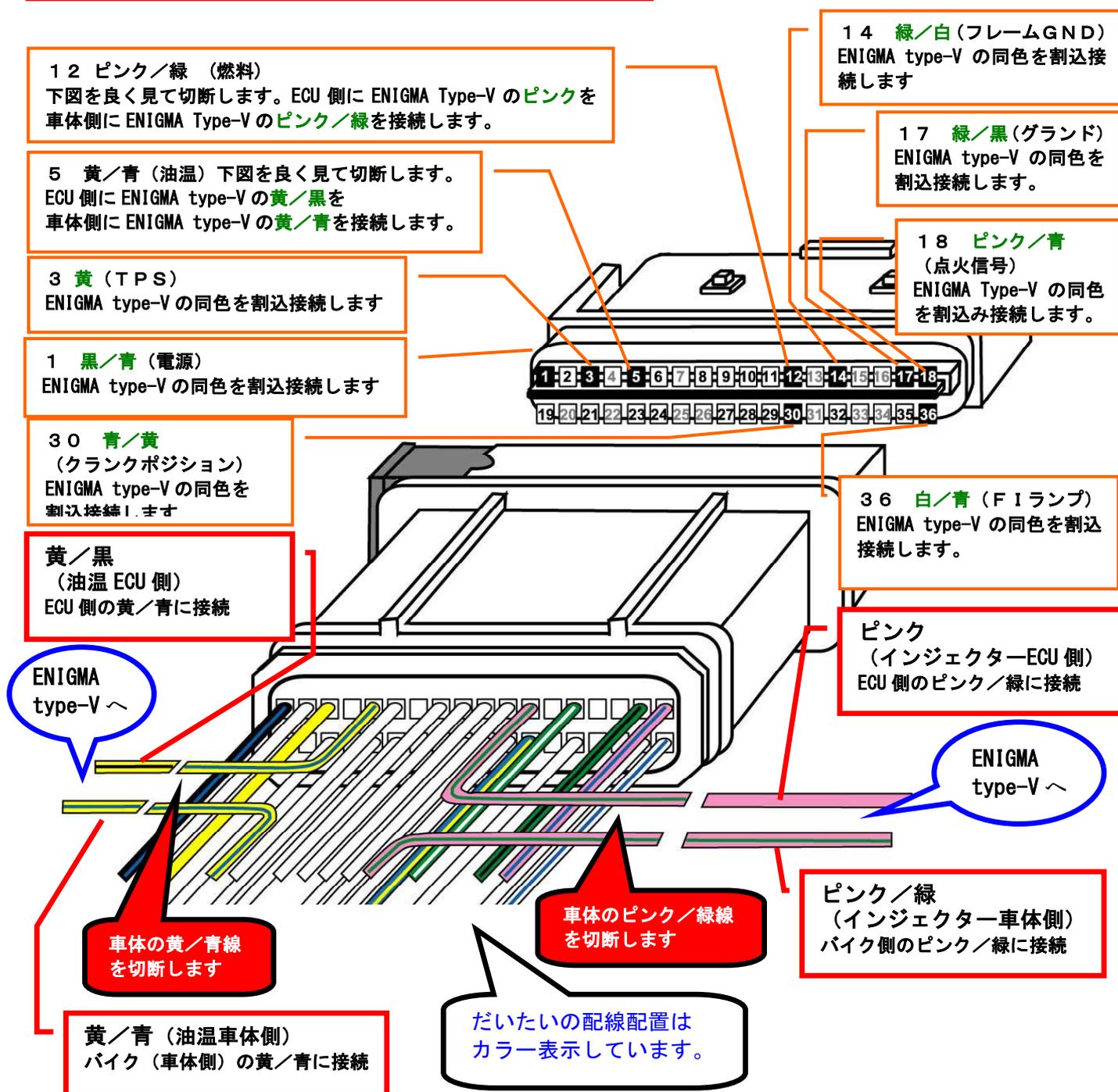
ムラサキ線はサーブス出力線なので ECU には繋ぎません。
使用しないときは絶縁・防水処理をしてください。

白線はピットレーンリミッタスイッチ用なので ECU には繋ぎません。
使用しないときは絶縁・防水処理をしてください。

- ※ ECU の 12 番端子 (ピンク／緑) へ接続されている線 (インジェクターへの信号) を切断して、ENIGMA Type-V からの配線で、バイク車体側にピンク／緑線を接続、ECU 側にピンク線を接続して下さい。接続には極性がありますので下図で良く確かめて間違いの無い様に接続して下さい。
- ※ 17 番端子と 35 番端子はどちらも緑／黒線です。ご注意下さい。
- ※ 10 番端子と 36 番端子はどちらも白／青線です。ご注意下さい。
- ※ ECU の 5 番端子 (黄／青) へ接続されている線 (油温センサーからの信号) を切断して、ENIGMA type-V からの配線で、バイク車体側に黄／青線を接続、ECU 側に黄／黒線を接続して下さい。接続には極性がありますので下図で良く確かめて間違いの無い様に接続して下さい。
- ※ 本体に直接水がかからないようにして下さい。また配線の根元からの水が入るのを防止するため、配線側を下にして設置して下さい。

- 下図を良く見て配線位置など間違わないように作業してください。

当社ではシート下右側カウル内に設置を想定しています。



- ECU 端子で繋ぐのは 1、3、5、12、14、17、18、30、36 の 9箇所です。上図で良くご確認下さい。
- ムラサキ線はサービス出力線です。ENIGMA type-V はクランク 1 回転に 1 回、5 V を出力します。市販の殆どのデジタルタコメーターなどに対応します。この線に繋がれば正確な値が表示される等色々な事に応用出来ます。必要が無い時はテーピングしてショートしないようにして下さい。
- 配線接続が終わってもリミッターは解除されていません。パソコンもしくはスマホで ENIGMA type-V 操作ソフトと通信すると簡単に設定が出来て解除出来ます。
- PC 用ソフトは機種専用 ENIGMA type-V GROM (2BJ-JC92) 用ソフトをお使いください。他のバイク用ソフトや FirePlus 用ソフトはご利用になれません。

- iOS 用アプリ、Android アプリは ENIGMA type-V 専用アプリをお使いください。
ENIGMA type-V 専用アプリは、アプリ内で GROM (2BJ-JC92) 専用バイクモデルを購入することにより GROM (2BJ-JC92) 用 Enigma type-V で使用することができます。
他のバイク専用のバイクモデルや FirePlus 用のアプリは使用できません。
- PC 用ソフトやマニュアルは下記当社ホームページより無料にてダウンロードできます。
iOS 用アプリ、Android アプリは下記当社ホームページから販売サイトへのリンクがあります。

<http://www.dilts-japan.com/download.html>

ピットインリミッタースイッチの設置

ENIGMAから出ている「白線」はピットインリミッタースイッチ設置の為の配線です。
ピットインリミッターは外部スイッチONの時だけ速度を制御するためエンジン回転を一定の回転に制御します。この機能を使用したい方は以下の作業を行って下さい。

一般に市販されているお好みのスイッチを購入して、使いやすい位置に設置して下さい。

(ハンドルに取り付ける場合は運転の妨げにならない操作しやすい場所に設置します)

スイッチは「ON」で通電／OFFで遮断する一般的な仕組みの物です。

押している時だけONになる物は適しません。ご注意下さい。

設置が終わったらENIGMAの白線を繋ぎます。通常はスイッチには2つの端子が有りますので片方に白線を接続。もう片方は確実に「ボディーアース」出来る場所に繋ぎます。

※もっとも確実なのはバッテリーマイナスに繋ぐ事です。間違ってもプラスに繋ぐと回路が焼け落ち使用不能になります。絶対に行わないで下さい。

以上の作業でピットインリミッタースイッチの設置は終了です。

- **ピットインリミッター用の配線を使用しない時は先端が金属部分に当たってショートしないようにテープで絶縁して下さい。**